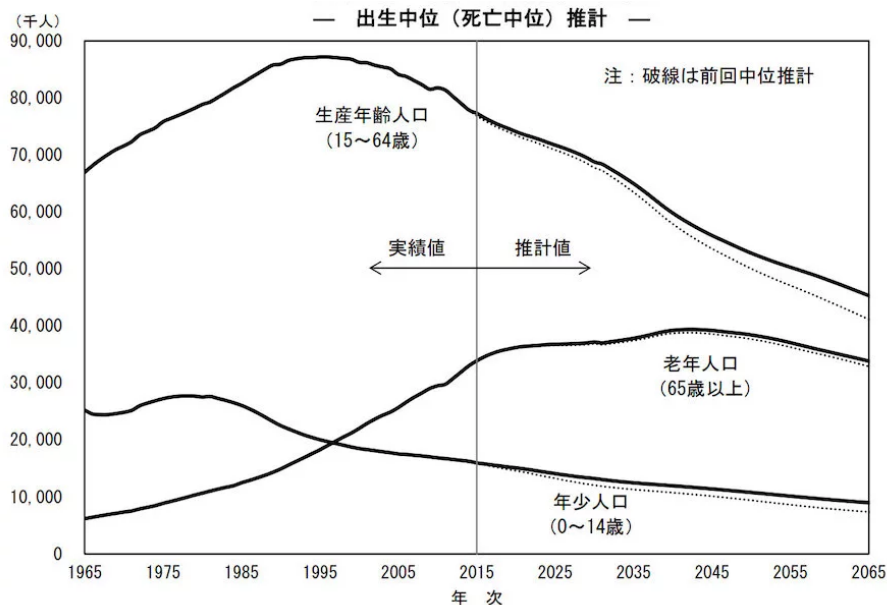


里地里山の事例

資料提供：（公財）日本自然保護協会
高川晋一

発表：国際自然保護連合日本委員会
事務局長 道家哲平

里山や身近な自然を取り巻く危機的状況



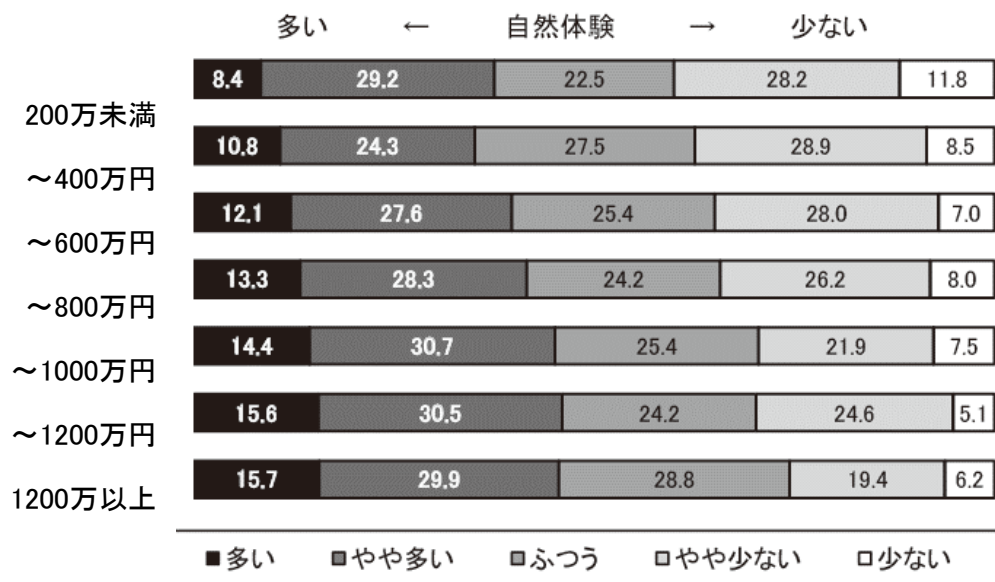
■ 「普通種」の減少と地域絶滅

- ノウサギ・ホタル・ウグイスなどの減少
- チョウの4割が絶滅危惧種相当に減少

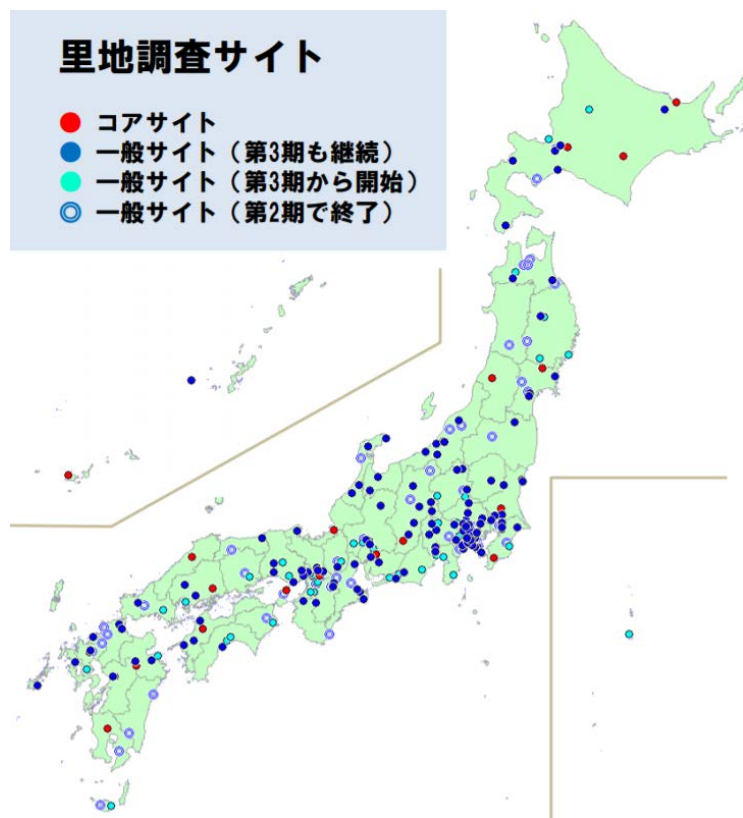
■ 里山のアンダーユースを全国的・面的に止めるのは非現実的

■ 「ボランティアに頼る保全活動」の限界

■ 自然体験機会のさらなる減少と、経済・教育格差による自然体験格差の拡大



モニタリングサイト1000里地調査



■ 全国規模の市民科学プロジェクト

- 約250カ所で100年を目指した調査。
- 2,500人以上の参加。190万件のデータ

■ 多様な里山。多様な管理。

- 市民団体が保全する私有地
- 都市公園や森林公園、青少年施設
- 企業の保全緑地
- スキー場、キャンプ場

■ 2019年に10年間の結果を公表した



多様なモニ1000サイトの事例



みなくち子どもの森(滋賀県甲賀市)
-市立都市公園だが全域保護地域+博物館)



三木山森林公園(兵庫県三木市)
-独自に生物多様性戦略を策定

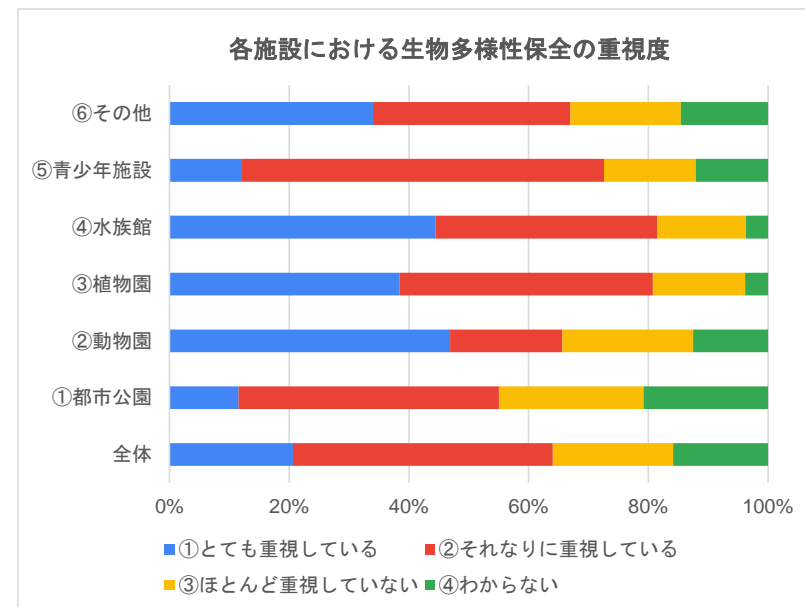
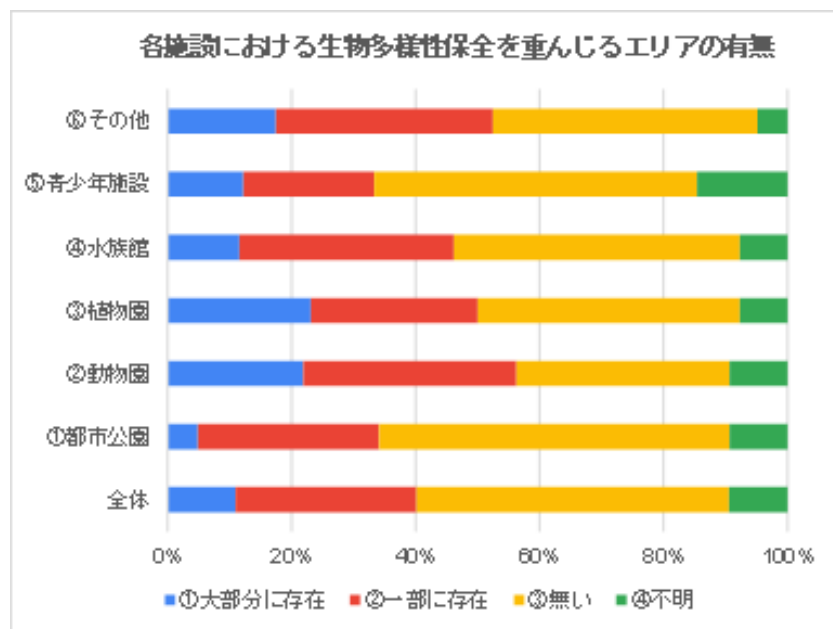


横浜自然観察の森(神奈川県)
-保全管理計画に基づき順応的管理

里山的公有緑地

都市公園、森林公園、ふれあいの里や自然観察の森 青少年施設、動植物園、

- ・ 全国に数千カ所。国民のほぼ全員が(境遇に寄らず)訪れる。
- ・ 面積も広く、保全エリアが存在している場所も多い。
- ・ 保全活動・環境教育活動についても、ポテンシャルが高い。



国立環境研究所・日本自然保護協会

「潜在的な民間保全・保護地域情報の収集業務」報告書より(未発表)

里山とOECM

- モニ1000や重要里地のような「点」の保全が現実的かつ重要。
 - 希少種だけでなく「普通種」をワンセットで守れている場所。
- 既に「緑地があり」「有給職員がおり」「自然との接点」がある施設・敷地を保全の拠点に転換できると理想的
- 環境教育・自然体験の場としても機能

例: 長池公園(市立の都市公園)

- 10年サイクルの植生管理
- 保全と活用の両立
- 市内の希少種の保存
- 地域の社会課題への総合的アプローチ

